

第3回小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会  
議 事 概 要

平成22年4月8日(木)  
14:00~16:00  
小田原箱根商工会議所

1. 開会

2. 会長挨拶

石橋会長

- ・ 株価の上昇、失業率の若干の回復、賃金の微増など景気の回復の兆しが少しずつだが見えてきた。しかしながら、実態は景気の回復を肌で感じることができない不安定な状況が続いており、タクシー事業においても、需要が低迷し苦しい経営環境が続いている。一刻も早くタクシー事業者自身が事業の改善を図るため、本協議会におきまして委員の皆様より活発なご意見を賜りたい。
- ・ 本日は事務局において検討しました地域計画(案)を示させていただくこととしており、皆様方から忌憚のない意見等よろしくお願ひしたい。

3. 議事

事務局より、小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会地域計画(案)について、資料1を説明

- |       |   |
|-------|---|
| 委 員   | ・ P2の規制緩和によるタクシー事業者及び車両数について、平成21年7月以降の記載と、その次の小田原交通圏の輸送実績という記載は数字が違うのか。  |
| 事 務 局 | ・ 平成21年10月に本法が施行されているので、直近の車両数もあわせてお示した。  |
| 委 員   | ・ 小田原交通圏の輸送実績というのは、前と後で違うという意味ではないということ、タクシー事業者数にかかってくるということか。  |
| 事 務 局 | ・ 輸送実績には運送収入等を含むということで説明してきたので、それで整理している。   |
| 委 員   | ・ それならば、41両減ったという記載があり、特に21年7月からはこのようになったという書き方でいいと思う。小田原交通圏の輸送実績という言葉があると何か意味が違うのかと思った。<br>・ 給与等の統計が出てくるが、県内の統計でよいか。 |

- 事務局 ・ 県内の統計である。
- 委員 ・ P 3 の輸送実績の悪化で、1 両あたりとか 1 車あたりという表現があるが、統一したほうがよい。
- 事務局 ・ 正確に言えば 1 車両というのが正しいので、1 車両で統一する。
- 委員 ・ 環境の関係で一番気になるのは、タクシーが待っている時、エンジンをかけたままとなっている。地域計画案を見てみると、アイドリングストップ車というのは、特別の仕様車でないと止めたりすることはできないのか。
- 事務局 ・ 新車ですとアイドリングストップ車は出ており、車両を改造又はエンジンを自分で切るということで特定事業を考えている。特定事業計画には、この旨の取り組みも記載している。
- 委員 ・ 例えば、物の輸送だとバンドにキーをつけ、車両から離れる際にはキーを抜かなければ離れられないようなことを行っている会社もある。そのようなことがタクシーにあってもいいのではないかと思う。
- 事務局 ・ タクシーはトラックと違い、車両から離れることもあまりなく、離れる場合はエンジンを停めるのが一般的だと思う。アイドリングについては、タクシー事業者の方で今後取り組んでいく課題であると思う。
- 委員 ・ 具体的に何か入れたほうが良いと思う。
- 会長 ・ エンジンの始動、停止は輸送サービスにも関連してくる。冬場の寒い時期に利用者が乗った場合に寒い室内の状態でもいいのか、あるいは逆に夏場の暑い時期はクーラー等で車内の快適さを維持するというのも背景にある。どこまでエンジンを停めることができるかは色々議論があると思う。利用者の立場で考えれば車内を快適にといいサービスになるし、環境問題を考えれば停止しておくに越したことはない。
- 委員 ・ 自負するわけではないが、小田原地区は、小田原市、神奈川県のアジェンダと組み、10 年くらい 5 月と 10 月の 1 ヶ月間にアイドリングストップ運動を既に行っている。真冬と真夏はお客様から苦情等が出てくる場合もあり、10 月、5 月はエアコン等のサービスをしなくてもいい時期なので行っている。この取り組みは、アジェンダのほうで環境省の大会にも実例として出場している。
- 委員 ・ 車についても、昨年からはトヨタの L P 車は全ての車がアイドリングストップ車になっている。そういった方向になってきている。
- 委員 ・ 前回、観光立国から観光振興というかたちで話をした。観光立国は国の取り組みで

もあるが、P10の観光振興への取組みで、もう少し数字をシンプルにしたほうが良いのではないか。

- ・具体的にビジットジャパンキャンペーンというのが良く出ており、2010年で1千万人を目標としているが、現在の目標から今後伸びていくという考えだと思うので、どんどん伸びていくという表現にすれば良いと思う。
- ・旅行会社とのタイアップまでのところが分かりにくい。意図するところは、例えば何度でも訪れ乗車したいタクシーや、今までのサービスなど、そういったかたちのなかで行っていたと思うが、コースの問題になると、2つのポツが出てくる。今、国や県は着地型商品ということ言っていて、1つにまとめたほうが良い。趣旨とするところは、例えば、行政、観光協会、商工会議所、観光関係団体が地域の資源を活かした着地型商品をまず作っていくということがあり、その商品で旅行会社とタイアップして宣伝、集客に取り組むというところ。この2つのポツは、旅行関係だと少しわかりにくい。片方は何度でも訪れ乗車したいタクシーを目指しますと、それにはコースなどを作っていきますよとなっている。そうすると、その下も少しシンプルにしていったらどうかという気はする。

会長 ・そうすると、P10の で、下から2、3つめのポツか。

委員 ・コースを作るとか、旅行会社とタイアップするというのは同じかたちだろうと思う。観光関係の諸団体が、地元の観光資源に付した着地型商品を作り、又は企画・醸成し、旅行会社と連携して、宣伝・集客に取り組むというようなかたちのほうが良い。

会長 ・どこへどういう修文を入れたらよいかお聞きしたい。

委員 ・上は、観光協会、商工会議所、鉄道事業者等と検討しようということ。下は旅行会社へ売り込むには、自治体等が旅行会社と協議していこうということなので、かたちの上では行政、観光協会、観光関連団体等が地域の観光資源を活かした着地型商品を企画・醸成し、旅行会社と提携して、宣伝・集客に取り組むというようなところだと思う。

会長 ・上から2ポツの2013年、1500万人は国土交通省が掲げている成長戦略のなかに観光立国の推進というのが入っており、VJCのなかに1つの目標の指標として示されている。

委員 ・目標は3千万人だが、地域計画に記載するにはあまりにも大きすぎる。2010年の1千万人が一番最初の目標で、それを記載して比較していったほうが良いのではないか。

会長 ・この数字は3年ごとの段階で示されているので、一番わかりやすいというところで記載している。

- 委員 ・それはそれで良いと思うが、今現在の目標を知らなければ2013年には1500万人という真実味の問題になる。
- 会長 ・現状は6百何十万人に止まっており、これから巻き直しで成長目標として、このような目標に向かって進んでいくということで表されている。今、観光庁が国土交通省にでき、いかにこの目標を達成するかという議論が色々されている。
- 委員 ・国としては、3千万人が目標だが、記載の問題として現在の目標があって、今後伸びていくというのが大事だと思う。表現の仕方で、2010年は1千万人、2013年には500万人増えてるとするのは大変な伸び率だと思うので、このように理解してもらったほうが良いということ。
- 会長 ・その目標に向かって、様々な方が創意工夫し、観光庁も含めて進めていこうという部分もわからなくもないんですが、現状の数値はこれで留めておいたほうが良いと感じる。立国というのは、オールジャパンでの取り組みになる。

その他について、全般にわたり質疑

- 委員 ・2点あり、1点目は最低賃金の関係になる。現在、時給789円ということで、昨年の10月25日にアップし、生活保護費との整合性等の関係から、金額の引き上げが高くなっている。23円引き上げて789円になっており、生活保護費との乖離があるので、今後も引き上げとなるだろう。何を言いたいかということ、先程平均と比較してそのひらきが拡大しつつあるという話は、やはりこういった事業を速やかに進めていただいて、できる限り乖離を縮めるように迅速に処理していただきたい。
- 委員 ・もう1点は、減車というかたちになるので、今まで車両の供給過剰の問題を御議論いただいているが、減車を進めると場合によっては労働者の雇用情勢の関係が出てくる可能性がある。時間当たりの賃金ということでは問題がないと思うが、当然収入が下がる可能性がある。したがって、今後アルバイトを認めるか等諸々の雇用関係の問題があるので、充分その辺の配慮をお願いしたい。
- 会長 ・今の御意見を早く進めるためにも地域計画が必要になる。次に事業者が地域計画に基づいて特定事業計画にとりかかるかという段階で、そこで取り組む内容によって労働条件の環境も含めて改善を図っていくか、賃金も含めて効率のよい生産性の高められる事業経営規模にしていくのか、そういう背景がある。

#### 4. 閉会

石橋会長

- ・活発な御議論をいただき誠にありがとうございます。
- ・今回素案を御議論いただいたので、次回は案としてお示ししたい。

(配布資料)

議事次第

委員名簿

配席図

資料 1 小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会地域計画(案)

資料 2 第 2 回小田原交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会 議事概要